

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所・放課後等デイサービス どりーむキッズよしの川				公表日	令和7年 3月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		障害の程度や状態によって活動室を変えている。1対1の個別の対応が多く生じる。入浴サービスは2人体制で行う。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		<input type="radio"/>		1対1の対応が多いため利用児童の状況により指導員も含めて個別の見守りを行っている。	とくに新学期の1~2か月は環境の変化による不安定な状況がみられるため十分な配慮が必要である。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		<input type="radio"/>				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		<input type="radio"/>				
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		<input type="radio"/>		相談室を多目的に使用している。高学年の児童に落ち着いて話を聞いたり、学習ができる場として提供している。	パニックを起こしやすい児童には職員の個別の対応が必要となる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		話し合いの場を多くとるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		ミーティングで検討し、保護者の意向を踏まえ、できる限り迅速に応じていくようにしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		ミーティングの他、日々の朝礼でも前日の振り返りや当日の打ち合わせに際しても意見を聞き、検討して変更や改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		法人理事会にて各方面から意見をもらい、事業所で報告・検討している。	地域での評価もいただけるよう企画していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		職員研修会（法人全体・障がい部門・事業所内勉強会）を計画して実施している。外部研修への参加についても希望を取り入れ研鑽の機会を広げている。		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		モニタリング会議で各職員から意見を聞き、保護者に面談したりまた、保護者の意向を基に職員間で検討したりしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		<input type="radio"/>	現在はアセスメントツールは使用していない。	看護・リハ職員も会議に参加して各方面から意見や提案を集めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		毎月一回以上、振り返りと翌月の活動についての話し合いを実施している。	企画書を基に、実施に際し流れや留意事項・リスク管理等も含めて打ち合わせを行うようにしている。	

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		平日は個別の手先訓練・SST・ワーキングメモリー・クイズや音楽体操などのレクリエーションや子ども会での話し合いを行っている。学校休業日等では、季節を感じられるような内容を盛り込み、調理や社会見学などの有用な活動ができるように計画している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			1対1の対応が必要とされる児童が多い時には、集団活動の効果が望めない場合もある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日の朝礼で前日の支援についての情報共有を図るとともに当日の支援の実施についての手順や留意点を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者に対して利用時の様子をできるだけ具体的に伝えられるように連絡帳の記載をしている。	1対1の対応が多いと記録に係る時間が取りにくく、利用中の児童の状況を細部に渡って記録し保護者に伝えることが難しくなりつつあ
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子供会でしたいことを出し合ったり、子供の意見を聞ける場を設けている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時や電話などで、児童の状況や行事などを含めての下校時間の確認や利用時の様子などを伝えて連携を図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		子ども園から利用中の見学に来ていただいたり、児童発達支援センターの療育の様子を見学させてもらったり連携に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所には毎月の利用状況の報告を届けている。移行時には、医療的なケアが必要な児童をはじめ、保護者の意向を踏まえて情報提供している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		久しぶりの開催が実現でき、参加者は少なかったが交流の場がもてたので今後に繋げていきたい。	今回オンラインでの参加の協力もあったので、次回も参加者をひろげることができ交流が図れるように企画したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		保護者の意見を傾聴して速やかに対応するように心がけている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		法人全体の広報誌どり-まあ通信（年1回）どり-むキッズよしの川だより（月1回）を発行し各種の連絡についての発信してい	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		絵カードの利用や、話つらい児童に対しては静かな部屋で個別の時間を取って話を聞くなど配慮している。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			今後企画して実現につなげたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		机上訓練や発生時を想定しての訓練や打ち合わせを行っている。防犯訓練は警察署の生活安全課より署員さんに依頼して事業所内で防犯教室と訓練を実施している。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		法人全体の研修会で訓練を行っている。洪水想定の上訓練を実施して、市役所危機管理課に届けている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		できる限り迅速に、傾聴して共に考えてアドバイスできるように努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		久しぶりの開催が実現でき、参加者は少なかったが交流の場がもてたので今後に繋げていきたい。	今回オンラインでの参加の協力もあったので、次回も参加者をひろげることができ交流が図れるように企画したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者の意見を傾聴して速やかに対応するように心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		法人全体の広報誌どり-まあ通信（年1回）どり-むキッズよしの川だより（月1回）を発行し各種の連絡についての発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードの利用や、話づらい児童に対しては静かな部屋で個別の時間を取って話を聞くなど配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			今後企画して実現につなげたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		机上訓練や発生時を想定しての訓練や打ち合わせを行っている。防犯訓練は警察署の生活安全課より署員さんに依頼して事業所内で防犯教室と訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		法人全体の研修会で訓練を行っている。洪水想定の上訓練を実施して、市役所危機管理課に届けている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		看護師により把握している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在の利用児童に該当者はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		月1回の点検・見直しも実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族には文書で配布し周知を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		発生時は迅速に職員で検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人全体の研修計画に入れて実施している。また、新入職員は入職後1か月以内に事業所内でも研修の機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在の利用児童に該当者はいない。		